

## 埼玉県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

### ふるさと納税

羽生市立南中学校

一年 伊藤 さらら

最近テレビやCMで「ふるさと納税」という言葉をよく耳にします。「ふるさと納税」って特産品をもらえるだけの制度なのかなんて思っていてどんな仕組みなのかは全く知りませんでした。今回、税についての作文を書くにあたって気になっていた「ふるさと納税」について調べることができました。

「ふるさと納税」とは、生まれた故郷や応援したい自治体に寄付ができる制度で、手続きをすると、寄付金のうち二千円を超える部分については、所得税及び、住民税が控除されるようで、地域の名産品などのお礼の品もいただける魅力的な仕組みになっています。自治体側も返礼品で地域の特産品PRができ、地域のことを知ってもらえるきっかけにもなり、地域経済の活性化につながるとも素晴らしい制度ということが分かりました。でも、調べていくうちにデメリットもあるということが分かりました。それは、「ふるさと納税」を利用すると、実際に住んでいる自治体の住民税が控除されてしまうので、住んでいる自治体の収入が減少してしまう、そして何より返礼品競争が過熱して社会問題になっていくということです。返礼品ばかりが注目され、返礼品を目当てにした寄付が多く、自治体の応援という本来の目的から外れてしまっているのが現実です。で

も、今は返礼品がなくても自治体を応援する仕組みがあることが分かりました。それは、「ガバメントクラウドファンディング」という取り組みです。自治体が抱える問題解決のため、「ふるさと納税」の寄付金の「使い道」を具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄付を募る仕組みです。私は、これはとても理想的な「ふるさと納税」の活用法だと思いました。

例えば、「ふるさと納税」で罪のない動物たちの殺処分をなくす活動。こういったプロジェクトを応援することが出来ます。このプロジェクトは動物の命を守り、人間と動物がより良く共存できる未来を目指して、新しい家族を見つけるため、譲渡活動に取り組む自治体、動物たちもつ能力を活かし災害現場やセラピーで活躍できるようにトレーニングを行う自治体。などがありました。このような取り組みが全国に広まれば、うばわれる命は限りなくゼロに近づくと 생각합니다。このように「ガバメントクラウドファンディング」は応援したいと思えるプロジェクトを選んで寄付することができるのです。これは自分の納めた税金が社会の役に立っていることが実感できる制度なのです。だと思います。私も税金を納める様になったらこういったプロジェクトを応援したいと思っています。今後は、「ふるさと納税」以外の税についても学んでいき、社会に貢献できる大人になりたいです。

## 羽生市長賞

# サービスの循環

羽生市立南中学校

三年

瀧口 あい梨

「いってきます。」

朝、聞こえてくる父の声。明るい声が入り、頭がシャキッとする。こうして私の一日が始まる。元氣よく仕事に向かった父は、公務員である。

公務員とは、国や自治体に勤務し、社会の土台作りをする人だ。また、公務員による公共サービスは、税金によって行われている。私たちは一体、どんな公共サービスを受けているのだろうか。調べてみると、意識しないうちに、たくさんの公共サービスを受けていることがわかる。

例えば、私たちは当たり前のように、ゴミを出しに行く。そして、ゴミ収集員が集め、ゴミ処理場に持って行く。だから、私たちのまちは清潔に保たれている。私たちは税金による、環境衛生のサービスを受けているのだ。環境衛生のサービスは、他にもまちの清掃や健康維持施設の運営などが挙げられる。もし、環境衛生のサービスが無かったのなら、私たちは汚れたまかで健康を意識せずに生活をしていることだろう。

他にも、私たちが安心して日々の生活を送れるよう、安全維持のサービスも受けている。私たちを犯罪から守る警察官、火災から守る消防士、命を守る救急救命士などがある。この安全

維持のサービスのために使われる緊急車両は、どれも約八分という短い時間で到着するそうだ。税金によるサービスで命が守られることもあるのだ。

また、私にとって最も身近なものとして、教育のサービスがある。私たちは整備された学校で、たくさんの先生から質の高い教育を受けている。もちろん、使用する教材にはお金がかからない。中学生には一日あたり、約五千六百十円の教育費がかかるそうだ。つまり、私たちは学校に行く度、約五千六百十円の教育サービスを受けていることになる。

まだまだ、公共サービスはたくさんある。道路や交通機関を整備する、利便性のサービス、さまざまな事業を行う、産業振興のサービスなどがある。

このように、公共サービスは私たちの生活を支える上で、必要不可欠である。また、例で挙げた職業は全て公務員だ。社会の土台を作り、公共サービスを展開している公務員に感謝したい。また、公共サービスの資金となっている税金の存在にもありがたみを感じる。私たちはいろいろな公共サービスを受けているのだから、納税者として税を納めることで、恩返しをするべきだと思う。

「ただいま。」

帰宅した父の声が聞こえた。父は今日も、誰かのために、公共サービスに従事し努めてきた。父も納税者として税を納め、さまざまな公共サービスを受けている。税金によって、サービスが循環しているのだ。おもしろいことに気づき、思わず、温かな笑みがこぼれた。

## 暮らしをつくる税金

羽生市立東中学校

一年 恵 蘭

私は本を読むことが好きで、定期的に市の図書館へ行っています。そこでは、自分のカードをカウンターに持って行きさえすれば、いつでも、自分の読みたい本を借りることができます。

だから、図書館を利用する私たちがお金を払うことはありません。しかし、館内には働いている司書の方々がいます。さらに、あんなにもたくさん本をそろえるには、かなりのお金が必要です。また、いつもエアコンで涼しくなっているため、電気代も多くかかってしまうはずで。

そこで、図書館がどのように運営されているのか疑問に思い、調べてみることにしました。

その結果、公立の図書館は、なんとすべてが税金でまかなわれているそうです。このような建物は他にもあり、「公共施設」と呼ばれています。例えば、児童館や公民館、体育館、公園、保健所、交番など、数えたらきりがありません。

私は今まで、利用した公園や図書館にお金を払ったことはなく、それが普通だと思っていました。しかし、これらはすべて税金のおかげで、税金を払うたくさんの人々の手で支えられていることを知りました。当たり前だと思っていた自分が、何だか

恥ずかしくなりました。

また、税金には「公的サービス」という使われ方もあります。簡単に言えば、消防署や警察の活動のことです。

今朝、近くで救急車のサイレンが聞こえました。きっと、誰か具合の悪い人がいて、あわてて電話で救急車を呼んだのだと思います。今は、電話で一一〇番か一一九番にかければ、すぐに警察や消防を呼ぶことができます。

もし仮に、税金が無くなったとします。すると、何をすることもお金が必要になってしまいます。もしも調子の悪い人がいても、税金が無いとお金がかかるため、救急車を呼びにくくなってしまふと思います。その迷いが結果的に命を左右することになると思うと、ぞつとします。さらに、警察の仕事ができず、犯罪が増えてしまうかもしれません。税金が無くなると、日本は住みづらい国になってしまう気がします。

中学生の私にとって、税と関わる場面は、買い物をする時の消費税くらいしかありませんでした。しかし、考えてみると、税金は街中のあらゆる場面に使われ、大切にされていることが分かりました。税金こそが、縁の下の力持ちだなと思いました。税金は、私たちの暮らしをつくっています。だからこそ、集められた税金は、これからも大切に活用してほしいです。

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 銀賞

## 健康のありがたみを感じて

羽生市立東中学校

二年 木村 悠聖

僕の母は潰瘍性大腸炎である。この病気は指定難病に指定されており、現在の医療では完治する治療法がない。母は都内の病院に定期的に通い、検査をして毎日沢山の薬を飲んでいく。その治療のおかげで日常生活に支障なく元気に過ごしているそう。

ある時、大量の薬を持ち帰ってきた母にどのくらい医療費がかかっているのか気になり、聞いてみた。診療明細書をみせてもらうと、診療費、薬代が想像以上に高いことに驚いた。だけど日本には指定難病患者への医療費助成制度があり、実際は高額な医療費がかかっても患者への負担は極一部で、残りの医療費は全て税金から支払われているということを教えてもらい、少し安心した。なぜなら、実際にかかった総額はすぐに払えるお金ではないと思っただけだ。母はこの制度のおかげで入院することもなく日常生活が送れているので、ありがたい制度だと感じた。この制度に助けられている人がたくさんいるのだろうとも思った。

僕は「税金」の使い道がよく分からなかったが、人の命を守るために使われていることを知った。そして医療費に使われる税金について調べてみることにした。

日本では、国民皆保険制度がある。この制度は病気や怪我をした際に高額な医療費の負担を軽減してくれる保険制度であり、誰でも医療費を心配せずに適切な医療を受けることができるようになってきている。また、日本の保険制度は世界でも評価が高く、国によっては日本のような公的保険制度がなく、お金がない人は適切な医療を受けられないという医療格差が問題となっている国もあることを知った。

今まで僕は、当たり前のように病院に行って治療を受けていたが、今まで医療費が税金で助成されているなんて意識したことがなかった。また羽生市では高校生まで「子ども医療費助成制度」のおかげで、窓口ではほとんど負担なく治療を受けられることも分かった。

最近では、ささいな症状でも医療費がかからないという理由で病院を受診する過剰受診が増えて、自治体の財政が悪化しているという問題もあるようだ。

税金は無限にあるわけではなく、国民全員が様々な形で国に収めた大切なお金である。一人一人が税金を無駄にしないという意識を持つことで、過剰に受診する問題もなくなると思った。

僕は、体調を崩した時にすぐ病院に行き、治療を受けるといふことが、当たり前ではないということが分かった。また健康に生きることの大切さにも気づくことができた。僕たちが安心して暮らしているのは様々な税金のおかげなので、感謝をして元気に過ごしたいと思う。

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 銅賞

## 夏の日の救急車の話

羽生市立南中学校

二年

渡邊 絢太

夏になると毎年のように母から聞かされる話があります。「あのときは大変だったんだよ。」と。実は、幼いころの僕は夏になるとすぐ体調を崩す子だったみたいなのです。おかげで、保育園の頃の夏のイベントのお祭りや花火大会などは、途中までしか参加できないことも多く、ちよっぴり残念な思い出となっています。

母の話は、僕がもうすぐ2歳になるという夏の日の出来事です。数日前から高熱を出して寝ていた僕は、薬を飲み横になったところ、突然けいれんし出したそうです。けいれんは、何分間も続いたそうです。母は、もっともっと長く感じたと言います。慌てた母は、救急車を呼んだそうです。ほどなくして、救急車は来てくれましたが、その日はお祭りの日で、なかなか受け入れてくれる病院が見つかりませんでした。でも、救急隊員の方が、根気よく何軒もの病院にかけあってくれて、何とか久喜の病院まで搬送してくれて、治療を受けることができました。診断は熱性けいれんで、その日のうちに帰宅することができました。

「一一九番通報をすると救急車が来てくれる、しかもお金がかからない。」そんなことは、当たり前だと思っていました。でも、今回、世界の救急車を調べるとそんな国は少数だと知りま

した。アメリカでは一回あたりの料金は、約四万円、オーストラリアは約十六万円かかることもあるそうで、とても驚きました。

日本の救急車もよく調べてみると、実際には一回の出動で四万円くらいのお金がかかっていると言われているそうです。けれど、税金のおかげで無料で救急車のお世話になることができることがわかりました。

幸いなことに僕はそのあとから今まで一度も救急車に乗ったことはないですが、救急車を見かけたり、サイレンを聞いたたびに隊員の方たちを感謝するとともに、税金のありがたさを感じます。

今回の作文を書いてわかったのは「一一九番通報して救急車が無料で来てくれる」というのが当たり前ではないということです。世界を見ると有料の国がほとんどで無料の国はほぼ日本だけなのです。僕は税金というものはあまり好きではありませんがこの点に注目してみると、税金のありがたさを感じました。みなさんも身の回りの税金の使われ方を調べてみてはいかがでしょうか。僕も調べてみようと思います。ただ、母の話を何回も聞きたびに、税の恩恵に、感謝をしています。

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 銅賞

## 私たちの暮らしと税

羽生市立東中学校

一年 佐久間 祐子

「佐久間さん。」診察が終わって薬局の椅子に座っていたら、そう呼ばれた。薬剤師さんから説明を聞き、薬をわたされる。隣ではおばあさんが窓口でお金を払っていた。地域や住んでいるところによって違うが、私の市では今年四月から高校生までの医療費がサポートされ、薬局などで薬のお金を払わなくても受け取れるようになった。でもケガや病気になりやすい高齢者の人たちにではなく、なぜ私たちのような子供がこのようなサポートを受けているのか、とても気になった。

調べてみると、子供には「乳児医療費助成制度」というケガや病気の治療にかかるお金をサポートしてくれるものがあった。その制度のおかげで私たちは、お金を払わなくても良かったということだ。子供にはサポートが付いているが、大人は窓口でお金を払っている。でも実際のところは、そこで払っているお金は年齢によって変わるが、全体の料金のうち七十歳以上の高齢者は一割、それ以外の人は約三割ほどしか払っていないらしい。ここでは、全体の一割の医療費を払うこととして考える。それでは残りの九割のお金はどこから出てきて、誰が支払っているのだろう。簡単に言うと医療費と呼ばれるものは保険料から五割、税金から四割、自分で負担するお金が一割となっている。

ほとんどが、税金や保険料で私たちの医療費は払われているのだ。このように日常では税の存在が必要となっている。

私たちは誰でも幸せに暮らしたいと思っている。そのために勉強や仕事を頑張る、家族や友達と集団生活し、今よりも住みやすい社会にしたい。しかし、ケガや病気、災害などいつ起こるか分からない。誰でも歳をとれば働けなくなり、身体もおとろえていく。自分の力だけでは、どうすることもできない状況になってしまいかもしれない。そんな中、生活していくのは大変だけれど、人間らしくみんなが生活でき、頼り合える社会、住みやすい社会をつくるのが役割だ。税金はたくさんの方が払っている。お金を取られるのは嫌なことだと思うけれど、税金はみんなのために使われている。私たちの利用している日本の道、水道、電気にも一部。また、学校や病院、高齢者の介護施設にも。色々なところで税金は使われている。この税金があるから、私は学校にも行けているのだ。

しかし、今よりも良い社会保障の充実の実現を求めると、税金だけでは補えきれず、税を負担している人たちへの負担がさらにかかってしまうかもしれない。高齢化が進み、税金の支出が増えて足りない分は日本が借金を負いまだ公債が増えてしまう。だから、税の無駄遣いをしないよう私たちにできることの一つは、与えられた暮らしを大切に、次にどう繋げていくのか考えていくことだと私は思う。

## 子どもたちを救う税金

羽生市立西中学校

二年 藤本 啓太

税金が国民の生活に不可欠であることは有名な話だが、実際のところ何に使われているのか詳しく知っている人はそう多くはないのではないだろうか。そこで私は、税金がどんなことに使われているのか調べてみることにした。すると、私たちにとても身近な、教育という使い道があることが分かった。

私は昔から、学校の教科書や給食費、タブレットなどの費用を全て家庭で負担しているとしたら、ものすごい金額になってしまうのではないかと思っていた。しかし実際はそうではない。なぜなら、税金が存在しているからだ。しかし、税金による教育費の支援があってもなお、いまだに日本で教育を十分に受けられない子どもがいる。それはなぜだろうか。調べてみると、大きく二つの理由があるという。

一つ目は、家庭の経済的な格差だ。家庭によって裕福な家庭もあれば、貧困層と呼ばれる家庭もある。裕福な家庭は学校以外にも、学習塾や習い事など多くの機会を子どもに与えられるが、貧困層の家庭は経済的な理由によって得られる教育の機会が限られる傾向にあるという。さらに、経済格差によって子どもの進学率や就職率にも差が出ることが分かっている。そうした経済格差、及び教育格差が教育を受けられない子どもがいる原因

の一つとなっっていることは事実である。

二つ目は、生まれ育った地域による格差だ。都市と地方では地域の発展度合いに差が生じやすく、学校設備が十分でなかったり、学校自体の数が少なかったりと、地方は都市に比べて色々な問題を抱えているようだ。また、そうした問題があることにより、進学の見込みが狭められることもある。

こうした二つの理由から、教育を受けられない子どもがいるということが現状なのである。しかし、そうした現状を受け、国でも対策がなされていることが分かった。そのうちのひとつとして行われているのが「就学支援金制度」だ。これは、教育が十分に受けられない子どもに対して教育の機会を与えるために税金が使われて支給される仕組みである。

このように、私たちは普段税金に対してマイナスなイメージを抱きがちだが、学校に行けない子どもたちの支援などにも使われていて、これによって数多くの子どもたちが助かっていることを私たちは忘れてはならない。それと同時に、税金がこれからはみんなにとって良い存在であり続けることを願い、これからみんなのために、そして自分のためにも税金をしっかりと納められるような人になりたい。

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 入選

## 税金の意義と社会への責任

羽生市立南中学校

二年 林 惺南

税金は私たちの生活にはかせないものです。例えば、私たちが快適な生活を送るために必要な道路などのインフラやさまざまな公共サービスの提供を受けることができます。つい先日、税金の大切さを改めて知る事になるある出来事がありました。

私は付き添いで市役所に行く機会がありました。その日は税金の納付期限日でもあったせい、市役所は多くの人で混雑していました。列に並んでいる間、ふと周りの人たちの会話が耳に入ってきました。一人のおばあさんがお孫さんに、

「税金というのは大切なんだよ。それがなければ、いつも通っている道路や公園、毎日〇〇ちゃんが楽しみに登校している小学校などにも行けなくなってしまうんだよ。」  
と言っていました。

その言葉に私は一瞬ハッと驚きました。恥ずかしながら私はこれまで税金の使われ方についてあまり深く考えたことがありませんでした。漠然とした理解はあったもののまだ学生である自分にはどこか無関係な、大人になってからの話であると……。しかし、おばあさんの言葉を聞いて、年齢や性別、住んでいる場所など置かれている状況や環境に拘わらず、知らず知らずのうちに税金の恩恵を受け、私たちの生活にどれほど密接に関係し

重要な役割を果たしているのかを改めて気付かされた瞬間でした。

この出来事をきっかけに、家に帰ってから改めてインターネットで調べてみました。税金は道路や公園の整備だけでなく、教育や医療などの公共サービスの提供にも使われます。私たちは税金を支払うことで、安全な環境の学校で勉強し、病気の時には安心して充実した医療を受けることができます。また、福祉や社会保障制度にも充てられており、様々な事情によって困っている人々を支えるために使われます。

税金を支払うことは憲法にもある通り国民の義務であり、人々の暮らしを支えるために必要なことです。私たちは税金を払うことで、社会の発展と福祉の向上に貢献しているのです。

また、税金を大切にすることは、私たちの未来を守るためにも重要です。税金を適切に使うことで、よりよい社会を築くことができます。一人ひとりが正しい税金の知識を持ち、関心を持つことがとても大切です。だからこそ、使い途に無駄がないかにも目を配る必要もあると思います。

税金は私たちの生活基盤であり、社会の発展を支える大切な存在です。私たちが将来に向けて成長し、夢を追い求めるためには、一人ひとりが税金の意義を理解し、責任を持って納税すること、より良い未来を築いていけるのです。